

9 章 グループ学習

1 年 組 番 氏名

今回の授業の位置づけ

○探究活動（課題設定→情報収集→分析と整理→まとめ・表現）において、グループで協働する場面は多い。そこで、グループ学習に求められる姿勢と意義を確認し、さらにブレインストーミングで用いる手法の一つを学ぶ。また、題材を絞ってグループ学習を実践する。

ねらい

- 「スタンフォード大学の8つのルール」によってグループ学習に求められる姿勢を学ぶ。
- 実践を通じてグループの話し合いを活性化するコツや姿勢について学ぶ。
- ブレインストーミングで最も一般的な手法である「KJ法」を実際に体験する。

準備

- クラスを6つのグループに分けておく。各グループで進行役を1名決めておく。
- それぞれのグループに75mm×50mmのポスト・イットを100枚配布しておく。模造紙も1枚配布しておく。

1 ブレインストーミングで心がけること

ブレインストーミングとは、グループで新しい発想や視点を発見していくために最適な技法である。固定観念をかき混ぜ、複数の人の視点や知識をつなぎあわせることで、一人では考えつけないようなアイデアや視点を発見できる。これについて、スタンフォード大学では8つのルールを設けている。

【課題1】

ねらい

- グループ学習やグループでの話し合いに求められる姿勢を学ぶ。

内容

- 下記の「スタンフォード大学の8つのルール」の意味を知る。
- スライドに提示される訳をメモして、意識しよう。

スタンフォード大学の8つのルール

① Defer Judgement (= 判断を遅らせる)

その場では否定的なコメントをしない、ということである。これは、ブレインストーミングの基本で、否定せずにアイデアを出すことで、発想をのびのびと自由に広げていくことが可能となる。

② Go for volume (= 数を出せ、質より量！)

10のアイデアより、100のアイデアのなかに、よりよいアイデアが眠っている可能性が高い。アイデアは、できるだけたくさんあったほうがよいということである。

③ Encourage Wild Ideas (= 突飛な考えを歓迎する)

発想の飛躍したアイデアは、もしかしたら本当に重要な発見かもしれない。それ以上に、ワイルドなアイデアが多く出て、メンバーがそれを奨励できるような雰囲気が生まれると、さらに多くのアイデアが出やすくなる。ワイルドなアイデアを奨励することは、クリエイティブな発想の原動力になる。

④ Build on the Ideas of others (= 他人のアイデアに乗っかる)

人間は、他の人がよいアイデアを出すと、負けじともしっかりと良いアイデアを出そうとしてしまうものであ

る。こうした気負いは、かえって自由なアイデアが出てくることを規制してしまうことが多い。他の人のアイデアに一言つけくわえるだけでもOKという柔らかい心構えが重要である。

⑤ One Conversation at a time (= 一度に一人が話す)

議論が盛り上がってくると、みんなが一斉に話しはじめてしまうことがある。そうすると、一人の発言にフォーカスできなくなり、せっかくのアイデアを共有できなくなってしまうことがある。

⑥ Headline your Idea (= 見出しをつけて話す)

自分のアイデアを説明するのに、長々と話す人がいるが、アイデアはできるだけ一言で表現することが望ましい。簡潔に伝えることで、一人が演説するのではなく、他の人の発言の機会を増やすことができるようになる。次の人にどんどんバトンを渡していくことが大切である。

⑦ Stay on topic (= テーマから逸れない)

ブレインストーミングがうまく進み始めると、楽しく盛り上がることができるが、一方で楽しすぎることで、つい雑談になったりすることがある。ブレインストーミング中は、議題に集中することが大切である。そのためには、模造紙やホワイトボードに議題を書き出しておく、脱線しそうになっても、戻りやすくなる。

⑧ Be Visual (= 視覚化する)

出たアイデアは、残らず書き留めるようにする。その際、一人ひとりが手元でメモをとるのではなく、全員が見られるように、付箋紙やホワイトボードを使って、書き出していくことが大切である。視覚化することで、出てきたアイデア全てを記録することができるとともに、また、思考が煮詰まったとき、これまでに出的アイデアを遡ることで、新たなアイデアのヒントを探ることができるようになる。

2 コミュニケーション能力とは何か

「コミュニケーション能力」は重要だとされているが、そもそもどのような能力を指すのだろうか。それが本当に理解できればよりよく身に付くはずだ。

(1) コミュニケーション能力の重要性

経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によると、全国の企業が採用選考時に重視する要素は、10年連続で「コミュニケーション能力」が第1位でした。

25項目から5つ回答する設問では、「コミュニケーション能力」について、「主体性」、「協調性」、「チャレンジ精神」、「誠実性」の順に続き、上位5項目には変化がありませんでした。

近年、「コミュニケーション能力」と「主体性」の比重がますます高まっており、企業が採用選考にあたって、より重視していることがうかがえます。

新入社員選考に当たって特に重視した点（5つ選択）

経団連の調査結果による

第1位	コミュニケーション能力	80.2 %	第2位	主体性	62.1 %
第3位	協調性	55.4 %	第4位	チャレンジ精神	50.2 %
第5位	誠実性	36.3 %	第6位	責任感	26.9 %
第7位	論理性	25.6 %	第8位	潜在的可能性	23.8 %
第9位	専門性	21.7 %	第10位	職業観・勤労意識	16.3 %

(2) コミュニケーションの手法としてのKJ法（ブレインストーミングの手法）

KJ法とは、1つのテーマに対してブレインストーミング等で出されたアイディア1つ1つをそれぞれ1枚のカード（用紙）に書き、それを並べてみて、内容ごとにグループ化して整序することによって、論理構造を明らかにしていくための手法である。

KJ法という呼び名は、これを考案した文化人類学者、川喜田二郎氏のアルファベット頭文字からとられている。

さあ、思いっきり、自由に発想してみよう。こんな考えは笑われるかな、と自己規制せず、心と思い浮かんだことをどんどん出そう。「スタンフォード大学の8つのルール」を実践してみよう。

(3) KJ法のSTEP

STEP1：提示されたテーマに対して、思い浮かぶことをすべて、まずは個人個人で用紙に書き出してみる。どんなことも、1つの思い付きを1枚の用紙に記入する。あまり長々と書かず、短文もしくは語句にまとめる。

STEP2：机を寄せて広がりをつくって模造紙を載せ、書いた用紙をばらばらに広げてみる。

STEP3：用紙に記載された事柄を眺めながら、関連性のある用紙を重ねていく。最後に、それぞれのグループの内容を簡潔に表した記述の用紙を「代表」として一番上に載せる。

1枚のまま残る「一匹オオカミ」があってもかまわない。無理に他のグループと一緒にしないで、その多様性を大切にしたい。

小グループにまとめた用紙の一番上の「代表」同士を眺めながら、互いに親近性のあるグループを中グループにまとめる。さらにそれらが大グループにまとめたら、グループ化作業は終了である。

STEP4：ここからいよいよ論理的整序の段階に入る。グループ間に論理的な関連性ができるよう、大グループの用紙の束を並べ替える。これを「空間配置」と呼ぶ。配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、というのがコツである。

(**STEP5**：用紙で作った空間配置を別の紙に写し取るのが次のステップである。その際、グループ間の関連の内容を示す記号などを使って、空間配置の論理連絡が分かるようにするとよい。)

3 グループで話し合う

【課題2・ワーク1】

ねらい

○スタンフォード大学の8つのルールを実践してみる。

○KJ法を体験する。

内容

○実際のテーマでグループの話し合いを行い、どのような発言が話し合いを活性化させてグループに貢献できるか、ふり返って考える。

〈個人課題①〉

①模造紙と付箋紙を配布する。

②手順を確認します。STEP1～4を確認してください。

③意見を付箋に書き出し、模造紙に貼ります。

グループで課題研究のテーマを考えたりするのにきわめて有効である。

また、K J 法は個人でも使える方法である。頭の中だけで考えていると堂々巡りしてしまう場合があるが、文字として書いてアイデアを空間配置することによって、自分でも気づかなかった論理構造を視覚化してみることが可能になる。そして、その論理構造によって、さらに新たなアイデアが引き出されてくることも多いはずだ。

アイデアの空間配置を書き写して仲間に見せるのも有効だ。自分の論理構造の不足した部分に気づいて補ってくれることが期待できる。

【課題２・ワーク２】

内容

○グループでK J 法を使ってさまざまな角度から「理想のクラスについて」を考察する。

ワーク２

④KJ 法を使って、付箋の内容をカテゴライズし、必要に応じて見出しをつけてください。

⑤班としての「理想のクラス」を模造紙にまとめてください。

私たちの班の理想のクラスは〇〇（キャッチフレーズ）なクラスなどキャッチフレーズを考える。

⑥模造紙の内容を発表してください。（各班２分程度）

教師用資料 9 章 グループ学習【授業デザイン】

今回の授業の位置づけ

- 探究活動(課題設定→情報収集→分析と整理→まとめ・表現)において、グループで協働する場面は多い。
- そこで、グループ学習に求められる姿勢と意義を確認し、さらにブレーストーミングで用いる手法の一つを学ぶ。また、題材を絞ってグループ学習を実践する。

ねらい

- 「スタンフォード大学の8つのルール」によってグループ学習に求められる姿勢を学ぶ。
- 実践を通じてグループの話し合いを活性化するコツや姿勢について学ぶ。
- ブレーストーミングで最も一般的な手法である「KJ法」を実際に体験しながら、コミュニケーション能力について考える。

時間	内容・留意点
【準備】 (5分)	クラスを6グループに分けてください。(1グループ6～7人) ※ それぞれのグループに 75 mm×50 mmの付箋紙を配布してください。模造紙も1枚配布してください。(学年棚の上に用意しておきます)
【課題1】 (10分)	ねらい ○グループ学習やグループでの話し合いに求められるコツや姿勢を学ぶ。 内容 スタンフォード大学の8つのルールのスライドを示し、内容を確認する。 スライドに提示される訳をメモして、意識しよう。
【課題2】 ワーク1 (10分)	ねらい ○KJ法を体験する。 実際のテーマ(理想のクラス)でグループの話し合いを行い、どのような発言が話し合いを活性化させてグループに貢献できるか、ふり返って考える。 ワーク1〈個人課題①〉 ①ねらいを確認する。 ②スライドの STEP1・2・3・4を示してください。 ③意見を付箋に書き出し、模造紙に貼ります。 ※スタンフォード大学の8つのルール(特に心構えの部分)を意識する。
ワーク2 (25分)	ワーク2〈グループ課題①〉 ④KJ法を使って、付箋の内容をカテゴライズし、必要に応じて見出しをつけてください。 ⑤班としての「理想のクラス」を模造紙にまとめてください。 「私たちの班の理想のクラスは○○(キャッチフレーズ)なクラス」などキャッチフレーズを考える。 ⑥模造紙の内容を発表してください。(各班 2分程度)
振り返り (5分)	Classi アンケート〈リフレクションシート〉の入力